

社会福祉の理論と実践をつなぐ

受講料
無料

第62回 社会福祉セミナー

これからの若者支援

ーともに創る、若者と福祉の新たな関わりー

期 日 | 2026年7月4日(土)、5日(日)

定 員 | 600名(定員になり次第締切)

▼受講申込▼

受 講 料 | 無料



申込締切 | 2026年6月18日(木)

開催方法 | Zoom ウェビナーを使用したオンライン開催

申込方法 | 鉄道弘済会ホームページ
<https://www.kousaikai.or.jp/news/detail/>
もしくは右の QR コードよりお申し込みください。

主催 公益財団法人鉄道弘済会

後援 社会福祉法人全国社会福祉協議会

ねらい

近年、若者の生きづらさの問題が注目されている。生きづらさにはひきこもり・不登校・生活困窮・精神的困難等だけでなく、家族との葛藤や学校・職場・地域社会に居場所を見いだせないことによる孤立もある。加えて SNS の普及により、インターネット上の人間関係など、他者からは見えにくい悩みや不安を抱える若者も多くなっている。このような状況のなか、若者支援への関心は高まりつつあるが、彼らが抱える問題は多岐にわたるため、それらの実態を把握し、既存の制度や支援の枠組みで対応することが困難になっている。

また、従来の支援施策は、若者を「保護すべき存在」あるいは「支援の受け手」として位置づけがちで、このような支援のあり方が現代の若者のニーズに合っていないことも考えられる。若者の問題に対応するためには、彼らの想いを尊重し、一緒に支援を考え、形づくっていくことが必要なのではないだろうか。

本セミナーでは、現代の若者を取り巻く問題を多角的に整理するとともに、支援施策の変遷や実践の蓄積を踏まえ、若者と福祉との新たな関わりを志向する支援のあり方を探る。研究者、実践者、そして若者自身の語りを通して、これからの「若者支援」をともに構想したい。

プログラム | 7月4日(土)

(敬称略)

開会挨拶

10:00～

基調鼎談

開会挨拶終了後～12:30

若者の生きづらさをひも解くー若者支援論のいまとこれからー

若者の中には、ひきこもり、生活困窮、学校や職場、家庭での孤立の問題等さまざまな生きづらさを複合的に抱える人がある。さらに現代では SNS の普及によって、若者の生活する「世界」が複雑化し、生きづらさの実態はより見えにくくなっている。

このような現実根拠した支援のあり方を模索するために、本鼎談では、実践と研究の両面から若者と支援について多角的に検討する。これまでの「若者支援論」の変遷をたどり、現代社会における若者支援の課題と今後の展望を共有し、支援や支援者のあるべき姿を考えてみたい。

認定 NPO 法人 D×P 理事長 今井 紀明

NPO 法人 POSSE 代表理事 岩本 菜々

佛教大学社会福祉学部准教授 岡部 茜

休憩

12:30～13:30

講座①

13:30～16:00

支援の現場から考える、新しい若者支援施策とは

若者支援施策は、フリーターや若年無業者への就労支援を皮切りに、生活困窮やひきこもり支援なども含む包括的な生活支援へと拡大してきた。一方で、支援の対象からこぼれ落ちる若者の存在や、家族との葛藤、地域とのつながりの希薄化など現状の施策だけでは対応が難しい問題も顕在化している。

本講座では、若者支援施策の変遷と現状を整理するとともに、多様な立場からその成果と課題について報告いただく。さらに、若者の想いを尊重した施策の方向性についても視野に入れながら、今後の若者支援施策について多角的に考えたい。

認定 NPO 法人 スチューデント・サポート・フェイス 代表理事 谷口 仁史

認定 NPO 法人 カタリバ キッカケプログラム事業部事業責任者 富永 みずき

一般社団法人 コンパスナビ 代表理事 ブローハン 聡

コーディネーター：立教大学コミュニティ福祉学部准教授 濱田 江里子

プログラム | 7月5日(日)

(敬称略)

講座②

10:00~12:30

支援関係をどう築くのかー求められる支援者像とはー

若者の中には、「支援されること」そのものに抵抗感を抱く人も少なくない。それには、過去に支援を受けた際のネガティブな体験(傷つきや失望など)、自己責任を強調する社会的風潮、支援者との価値観や距離感のずれなど、さまざまな要因がある。また、支援が若者に「管理」や「評価」と受け取られてしまうこともある。

本講座では、若者の声に耳を傾けながら、支援者がどのように若者と信頼関係を築き、対等な関係性を育むことができるのかを考える。あわせて、若者支援における「求められる支援者」とはどのような存在なのか、多様な実践から探っていく。

社会福祉法人長野県社会福祉協議会わかさぽ Base 生活相談員 傳田 清

NPO 法人 CoCoTELI 理事長 平井 登威

一般社団法人ソーシャルバダゴジーネット代表理事 松田 考

コーディネーター：早稲田大学文学学術院教授、一般社団法人若者協同実践全国フォーラム共同代表 阿比留 久美

休憩

12:30~13:30

記念講演

13:30~15:00

若者の生きづらさに寄り添う支援とは

水谷青少年問題研究所所長、夜回り先生 水谷 修

受講いただくにあたって

- ・ 受講に必要な機材(PC、スマートフォン、タブレットなど)とインターネット環境をご用意ください。
 - ※ 視聴に伴う通信料などは受講者負担になります。また、通信環境によっては動画の乱れが生じる場合があります。
 - ※ インターネット接続に関する不具合、お問い合わせなどには対応できかねます。あらかじめご了承ください。
- ・ 本法人の許可なく、資料の一部およびすべてを複写、転載、または配布、印刷などし、第三者の利益に供することを禁止いたします。また、配信画面の録画、録音および撮影などは固くお断りいたします。
- ・ 取材や各媒体への掲載をご希望の方は、右記 QR コードより「取材申請画面」にて事前にお知らせください。
- ・ セミナー当日に X(旧 Twitter)で「#社会福祉セミナー」をつけ、感想などご投稿いただけますと幸いです。
- ・ 受講申込の際にお預かりする個人情報は、本法人のセミナー事業などのご案内にのみ使用いたします。

▼取材申込▼



【基調鼎談】

今井 紀明 (いまい のりあき)
(認定 NPO 法人 D×P 理事長)

高校生のとき医療支援のため渡航したイラクにて、武装勢力に人質として拘束される。帰国後は大きなバッシングを受け、対人恐怖症を経験。その後、偶然出会った中退・不登校を経験した若者たちと自身の体験が重なり、2012 年に NPO 法人 D×P を設立。経済困窮、家庭事情などで孤立しやすい若者が頼れる先をつくるべく、LINE 相談「ユキサキチャット」で全国から相談に応じる。また大阪ミナミの繁華街で「ユースセンター」を運営し、アウトリーチ事業を行う。

岩本 菜々 (いわもと なな)
(NPO 法人 POSSE 代表理事)

1999 年生まれ。一橋大学大学院博士課程在籍。年間 600 件以上の生活相談に関わりながら、奨学金返済者に関する実態調査および政策提言、困窮者支援活動などを通じて労働・貧困問題に取り組んでいる。朝日新聞デジタル「コメントプラス」コメンテーター。共著に『岩波ジュニア新書 生きるためのブックガイドー未来をつくる 60 冊ー』(岩波書店、2025 年)。

岡部 茜 (おかべ あかね)
(佛光大学社会福祉学部准教授)

立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士(社会学)。専門は社会福祉学、若者支援。若者の生活上の困難やそれを乗り越える手立てについての調査、研究や実践現場のネットワーク形成に取り組んでいる。著書に『若者支援とソーシャルワーカー若者の依存と権利ー』(単著、法律文化社、2019 年)、『現代のラディカル・ソーシャルワーカー岐路に立つソーシャルワーカー』(共監訳、クリエイツかもがわ、2023 年)、『若者支援政策の現在地ー子ども家庭庁/子ども基本法は「若者」をどう位置づけたのかー』(共編著、明石書店、2026 年)など。

【講座①】

濱田 江里子 (はまだ えりこ)
(立教大学コミュニティ福祉学部准教授)

上智大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士(法学)。専門は福祉政治、若者政策。上智大学特別研究員、千葉大学特任研究員を経て、2021 年 4 月より現職。働き方や家族の形が多様化する中で、若者の不安定な生活基盤や人間関係をはじめとする社会的なつながりの希薄化といった課題をテーマに、日本とイギリスの比較分析から政策形成の過程とその背景を研究してきた。

谷口 仁史 (たにぐち ひとし)

(認定 NPO 法人 スチューデント・サポート・フェイス 代表理事)
大学在学中から不登校、ひきこもりなどへのアウトリーチ(訪問支援)に取り組む。卒業後、NPO 法人 NPO スチューデント・サポート・フェイスを設立。これまで 86 万件を超える相談に携わったほか、幅広い支援機関とのネットワークの構築や社会資源の創出、執筆や講演など多彩な活動を通じて、社会的孤立・排除を生まない支援体制の確立を目指す。厚生労働省などの政府系公的委員も歴任。

富永 みずき (とみなが みずき)

(認定 NPO 法人 カタリバ キックアッププログラム事業部事業責任者)
1995 年生まれ、神奈川県出身。大学卒業後に教育系ベンチャー企業に入社し、中高生のキャリア教育にかかわる事業部に所属。子どものために家庭全体の支援をする仕組みを世の中の当たり前にしたという思いから、2020 年に認定 NPO 法人カタリバへ転職し、日本全国の 10 代の子どもと保護者にオンラインを通じた伴走支援を行うキックアッププログラム事業部に配属。保護者支援プログラムの開発・運営推進を経て、地域連携や自治体連携を担当。2026 年より事業責任者。

ブローハン 聡 (ぶろーはん さとし)
(一般社団法人 コンパスナビ 代表理事)

1992 年、無戸籍・無国籍で出生。日本・フィリピン・スペインのルーツを持つ。幼少期に義父から虐待を受け 11 歳から 19 歳を児童養護施設で過ごした経験から、講演や YouTube 番組「THREE FLAGSー希望の狼煙ー」で社会課題を発信。子ども家庭庁 子どもの家庭審議会委員として政策提言を行い、一般社団法人 コンパスナビ 代表理事として若者支援に取り組む。著書に『虐待の子だった僕ー実父義父と母の消えない記憶ー』(単著、さくら社、2021 年)。

【講座②】

阿比留 久美 (あびる くみ)
(早稲田大学文学学術院教授、
一般社団法人 若者協同実践全国フォーラム 共同代表)

専門は教育学(特に社会教育、青年期教育)、若者支援。あらゆる若者が生き、育つことのできる環境醸成、有用性を問われない社会形成に関心がある。博士(文学)。主な著作に『若者支援政策の現在地ー子ども家庭庁/子ども基本法は「若者」をどう位置づけたのかー』(共著、明石書店、2026 年)、『子どものための居場所論ー異なることが豊かさになるー』(単著、かもがわ出版、2022 年)、『孤独と居場所の社会学ーなんでもない「わたし」で生きるにはー』(単著、大和書房、2022 年)などがある。

傳田 清 (でんだ きよし)
(社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 かわさば Base 生活相談員)

1974 年長野県中野市生まれ。長野大学社会福祉学部社会福祉学科卒業後、児童養護施設で約 10 年間勤務。現在は社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 かわさば Base 生活相談員として、児童養護施設出身者をはじめとする若者の自律や生活に関する支援に取り組む。あわせて、特定非営利活動法人 NPO ホットライン 信州 事務局長、非営利団体 信州 G プロジェクト 代表、長野県中野市 ボランティア 連絡協議会 会長を務め、子ども食堂、訪問カフェパン、駄菓子屋を展開するほか、家電バンク・フードバンク 事業や居場所支援、居住支援などに携わる。

平井 登威 (ひらい とおい)
(NPO 法人 CoCoTELI 代表理事)

2001 年 8 月静岡県浜松市生まれの 24 歳。精神疾患の親をもつ子ども・若者の支援を行う NPO 法人 CoCoTELI 代表理事。幼稚園年長時に父親がうつ病になり、名前のつかない困難や虐待を経験、ケアラーとして情緒的ケアも行う。精神疾患の親をもつ子ども・若者支援の土壌をつくるために日々奮闘中。Forbes JAPAN 30 UNDER 30 2024「世界を変える 30 歳未満」30 人に選出。

松田 考 (まつだ こう)
(一般社団法人 ソーシャルペダゴジー ネット 代表理事)

一貫して現場で困難を抱える若者や家族の相談に応じながら、さっぽろ子ども・若者支援地域協議会の立ち上げに参画し、行政機関・学校・民間団体のネットワーク構築を進めてきた。2020 年 6 月より子ども若者の居場所「いとこんち」を設立し、地域社会による子育て(ソーシャル・ペダゴジー)に取り組んでいる。子ども家庭庁 子どもの若者支援体制整備及び機能向上事業 アドバイザーや子ども家庭審議会 子どもの居場所部会などに委員として関わる。

【記念講演】

水谷 修 (みずたに おさむ)
(水谷青少年問題研究所 所長、夜回り先生)

1956 年、神奈川県横浜市に生まれ、少年期を山形県にて過ごす。上智大学文学部哲学科卒業。横浜市にて、長く高校教員として勤務し、12 年間で定時制高校で過ごす。「夜回り」や、メール、電話での相談を通じて、中高生の非行・薬物汚染・心の問題に関わり、生徒の更生と、非行防止、薬物汚染の拡大の予防、自殺防止のための活動を精力的に行っている。

問い合わせ先

公益財団法人 鉄道弘済会 「社会福祉セミナー」係
TEL 03-6261-2790 FAX 03-3815-8978
Mail fukushi-seminar@kousaikai.or.jp